研究主題

幼小の交流活動を通して幼児の育ちを探る
～大楠小５年生との米作りの活動を通して～

横須賀市立大楠幼稚園主任　　飯島　弘子

１．　はじめに

（１）　園の概要・特色

横須賀市立大楠幼稚園

昭和５４年創立　開園４０年目を迎えた。

本園は三浦半島の西側に位置し、豊かな自然に恵まれた環境にある。しかし、最近リゾートマンションが多く建ち、環境開発も盛んになってきている。そのため、交通量が増えている。

幼児は、既成の玩具やゲーム機など、室内での遊びが中心になる傾向にあり、地域の環境の変化は、幼児の生活に大きく影響を与えている。

大楠地区の子どもたちは、３世代家族も見られるが、最近転居してくる子どもたちは、２世代家族化の傾向にあり、人とのかかわりが少ないためか入園当初とまどいを感じる幼児も少なくない。

そこで、日頃の教育活動の中では、自然や人とのかかわりを考え「園外保育の充実」「地域連携]「幼小連携」に重点を置き幼児の好奇心や探究心高め、生きる力となる直接体験ができる環境つくりを心がけている。

幼児一人一人が興味・関心・欲求を持ち、意欲や自信を高め、目的を持って遊びに熱中する子になって欲しいと願い幼稚園づくりを進めている。

（２）　本園の教育目標

「いつもいきいきと、活動する子を育成する」

１．最後まで頑張る子
２．自分の気持ちを素直に表現する子
３．友だちと仲良く遊び心豊かな子

（３）　平成３０年度園児数及び学級構成・職員構成

＊年中児（４歳児）　　２３名
＊年長児（５歳児）　　２５名
園長・主任教諭・担任２名　　教育支援介助員(火・水・木勤務)１名

平成30年度大楠幼稚園教育の全体図

生き生きと活動する子の育成

教育目標
1. 最後まで頑張る子
2. 自分の気持ちをすなおに表現する子
3. 友だちと仲良くあそび、心豊かな子

今年度大切にすること
・小学校とのつながりを深める

保護者

幼稚園との交流・連携
・懇談会（年3回）
・家庭訪問
・個人面談
・盆踊り練習
・親子で遊ぼう会
・夕涼み会（夏休み）
・運動会
・もちつき大会
・カレーパーティー
・クリーンデー

学校評価
・保護者アンケート（年1回）

園　児

教育目標を達成するために

1. 最後まで頑張る子
・天神島、前田川、関口牧場、大楠山登山、湘南国際村への徒歩での園外保育
・「好きな遊びタイム」後の後片付け　・栽培活動の継続　・マラソン

2. 自分の気持ちをすなおに表現する子
・自由な制作活動
・円滑なコミュニケーションつくりのための言葉づかい（「ごめんね」「ありがとう」）
・ボディペインティング

3. 友だちと仲良くあそび、心豊かな子
・異年齢との交流（4、5歳児）　・すいかわり大会　・毎月のお誕生会
・花の木公園、ソレイユの丘、久里浜花の国などの園外保育
・園周辺の自然とのかかわり　・秋の遠足（ズーラシア）
・老人ホームヒューマンとの交流　・陶芸体験・そば打ち体験
・栽培活動（ジャガイモ、さつまいも、大根、お米、トウモロコシ）　・芋煮会
・降園前の読み聞かせ
・園児への週1回の本の貸し出し（レッスンバッグ）

職　員

・安全・保健の管理
・内科、眼科、歯科、耳鼻科検診、視力聴力検査、身体測定（年5回）
・毎朝の健康観察
・教育相談機関との連携
・交通安全教室
・園舎、遊具、用具の安全点検（月1回）
・事故発生時の救急体制
・危機管理マニュアルの活用
・安全防災計画

環境整備
・遊具、用具、図書などの整備
・施設や設備の安全・維持管理（畑、田んぼ、花壇、砂場、遊具など）

教員の研修
・園内研修　・大楠小との合同研修　・夏季研修

今年度の研究ーテーマ
米作りをとおして幼小連携　～大楠小学校5年生との交流をとおして～

地域

開かれた学校作り
・学校評議員会
・学校関係者評価員会
・幼稚園へ行こう週間

幼・小・中連携

大楠小との連携
・大楠小運動会参加
・小学校体験
・大楠小授業見学
・大楠小交流給食
・1年・秋谷海岸・授業体験
・2年・・秋谷海岸で遊ぼう
・3年・・七夕に向けて
・4年・・ゲームで遊ぶ
・5年・・米作り・プール交流
・6年・・運動会での交流

愛児園との交流
・サッカー、交流給食

地域連携
・大楠、武山中学生との職業体験
・大楠中3年生との家庭科授業交流
・消防署見学
・公開保育
・体験保育
・クリーンデー
・もちつき大会

ボランティア
・読み聞かせ（虹の会）
・大楠山管理の方々
・教育ボランティア

安全
・大楠小との合同避難訓練（地震・津波）
・大楠小との合同不審者対応訓練

研究主題のとらえ方

～幼稚園と小学校の連携の必要性を幼児の育ちを通して検討していく～

○幼児期の教育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものであり、幼児期の発達の特性に照らして幼児の自発的な活動としての「遊び」を重要な学習として位置づけ、教育課程を編成し、教師が意図的・計画的な指導を「環境を通して」行っている。

幼児期の教育では、遊びを通して様々な活動を経験することによって、豊かな感性を養うと共に生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培い、また、小学校以降における教科の内容等について実感を伴い強く理解できることにつながる「学習の芽生え」を育んでいる。

このような特質を有する幼児期の教育は、幼児の内面に働きかけ、一人一人の持つ、可能性を見いだし、その芽を伸ばすことを目的としている。

○義務教育は、子どもの有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、全ての子どもに一定水準の教育を保証することが求められている。小学校では、時間割に基づき各教科・領域等の内容を指導計画の下で教科書などを用いて指導している。

○遊びを中心とした幼児教育と教科等の学習を中心とした小学校教育とでは、教育内容や指導方法が異なっているものの、幼稚園から義務教育段階へと幼児の発達や学びは連続しており、幼児期の教育と小学校教育との円滑に接続されることが望ましいと考える。このことから、幼稚園と小学校の充実した連携を進めることが必要だと言える。

研究の方法と内容

1．　組織的・計画的な交流

（1）　本園では以前より幼小の連携を計画的に行っている。

（2）　幼小お互いの連携担当者による年間計画の確認をする。

① 小学校行事への参加

・小学校運動会への参加・ＰＴＡ主催の「おおぐすフェスタ」に参加・作品展を見学する

・幼小合同避難訓練を計画の実施

② 各学年との連携・１年生―「交流給食」「授業体験」

・１・２年生―「秋谷海岸で砂遊びをしよう」　・３年生―「七夕集会」での交流

・４年生―「運動遊び」での交流　・５年生―「米作り」での交流・プールでの交流

・６年生―「運動会リズムダンス」での交流

③ 卒園時期にはケース会議や聞き取り調査

④ 小学校評議委員は、幼稚園評議委員も兼ねているため幼・小の情報・意見交換を行う。

2．　連携のねらいや内容について教師間の話し合いを密に行うことにより、幼・小職員が幼児・児童の育ちを共通理解をする。

① 幼稚園と小学校が子どもの学びや発達についての実践記録を作成する。

② 交流後は、反省会を行い意見交換を行う。

③ 保護者とも幼児の育ちを共有する。

（個人面談で話し合う・ホームページ等にて活動内容や取り組みを知らせる）

大楠幼稚園(幼小連携)のねらい一覧表

幼稚園教育において育みたい資質・能力	(1)豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり分かったり、できるようになったりする　(知識技能の基礎) (2)気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする (思考力・判断力・表現力等の基礎) (3)心情・意欲・態度が育つ中でよりよい生活を営もうとする　(学びに向かう力・人間性等)	
本園の教育目標	「いつも生き生きと、活動する子を育成する」 (1)最後まで頑張る子 (2)自分の気持ちを素直に表現する子 (3)友だちと仲良く遊び、心豊かな子	
	4歳児	5歳児
学年のねらい	・進んで友だちと楽しく遊べる子	・友だちと一緒に充実感を持ってやり遂げる子
本園の指導のねらい	・基本的に生活習慣を身に付け、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう	・友だちとの遊びを深めながら、共通の目的が実現できる喜びを味わう
期のねらい Ⅰ期 (4月～6月)	・教師や幼稚園に親しみを持ち喜んで登園する ・幼稚園生活の仕方が分かり、安心して過ごす ・園の遊具や用具に興味を持ち、好きな遊びを見つけて楽しむ **○●身近な春の自然に親しむ**	・進級を喜び、教師や友だちに親しみながら園生活を楽しむ ○自分の気持ちや考えを友だち同士互いに伝えあいながら、一緒に遊ぶ ・園生活の仕方が分かり、友だちと好きな遊びを楽しむ **○●自然や身近な環境と触れ合い、見たり試したり、工夫したりして遊ぶ**
Ⅱ期 (7月～9月)	・園生活の中で必要なことを自分でしようとする ○みんなと一緒に戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ □友だちと遊ぶ中で、感じたことや考えたことを伝え合う ○■プールや泥、水遊びなど夏ならではの遊びを思い切り楽しむ	**□○●友だちとのかかわりを広げ、共通の目的を持って遊ぶ** ・集団の中の自分を意識し、自分の役割をはたそうとする ■△いろいろな運動や遊びに興味を持ち体を動かして遊びを楽しむ ◇自分の力を発揮して、いろいろな活動に取り組み、集団ゲームなど表現する楽しさを味わう
Ⅲ期 (10月～12月)	**●◇気の合う友だちと共通の目的を持ちながら遊ぶことを楽しむ** **●身の回りの自然に触れ、遊びに取り入れたりして楽しむ** **●自分の気持ちや考えを伝え合い相手の気持ちに気付く** ◇いろいろな遊びに興味を持ち、自分のイメージや考えを表現する	◇いろいろな遊びや運動を楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ **●友だちと楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりする** ▲小学校行事に参加し、小学校生活や小学生に関心をもつ **●季節の変化に興味関心を持ち、自然物を取り入れた遊びを工夫する**
Ⅳ期 (1月～3月)	◇友だちとかかわって遊ぶ中で、遊びのルールや約束を守ろうとする ◇自分なりの力を発揮しながら友だちとかかわり,様々な活動を楽しむ ・それぞれの思いやイメージを膨らませたり自分の気持ちや考えをのびのびと表現したりして遊びを楽しむ ・生活や遊びを通して、進級への喜びや期待をもつ	・冬の自然に興味や関心を持ち寒さに負けずいろいろな遊びに積極的に取り組む ▲自分の力を充分に発揮し友だちと力を合わせてながら、積極的に園生活を楽しむ ▲1年生になる自覚と喜びを持ち、それに向かって自信を持って行動する。 ・春の訪れに気付き、身近な自然の変化に関心をもつ

□　3年生　「3年生と一緒に七夕集会をしよう」(7月)

●　5年生　「5年生と一緒に米つくりをしよう」(6月～11月)

△　5年生　「5年生と一緒にプールに入ろう」(6月)

■　6年生　「6年生と一緒にリズムダンスを踊ろう」(9月)

◇　4年生　「4年生と一緒に運動遊びをしよう」(1月)

▲　1年生　[小学校体験をしよう」(2月)

【　５年生と米作りをしよう　】

日　時　　６月 12 日　（火）　10：20～10：50
場　所　　幼稚園の田んぼ
参加者　　５年生　53 名　　４歳児すみれ組　23 名　　５歳児かもめ組　25 名
　　小学校職員　２　名　　幼稚園職員　４　名

幼児の実態
・５歳児は昨年度も米作りの体験があるので、田植えの様子は予想がつく様子であったが、４歳児は初めての体験なので楽しみにしている。

幼児のねらい
・５年生と交流活動を通して、米ができるまでの経過や大変さを知る。
・収穫した米で「おにぎりパーティー」を行い食物の大切さに気付くと共に、感謝の気持ちを持つ。
主となる領域　健康・人間関係・環境・言葉・表現

５年生の実態
・５月末に田植え体験を実施しており、気をつけるべき点を理解している。

５年生のねらい
・幼稚園児との交流を深める。
・米作りについて知っていることや学んだことをやさしく教えることができる。
単元名　「和菓子つくりにチャレンジ」（総合的な学習）

6 月 12 日(火)「田植えをしよう」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
	・田んぼは苗が植えやすいように耕し、苗を用意する。	
・５年生はもち米を植えた体験があるので苗の束の本数や、田んぼ植える深さなどを考慮しながら田植えをしてくれると思うので、５年生に教えてもらいながら幼児は田植えを進める。	・５年生の教師から田植えの方法を聞く。 ・５年生とペアになり苗を持って一緒に田植えを行う。	・幼稚園児がスムーズに田植えができるように、５年生に指示を出し、５年生が幼稚園児に教える。
・田んぼの中央部分を板の上に四つ這いになり苗を植えている５年生の行動を感謝しながら見るようにする。	・田んぼの中央部分は幼児たちが届かないので、板をおき５年生に植えてもらう。	・年上の自分たちが上手に田植えをする様子を見せられるように５年生へ声をかける。
・田植えが終了後は、田んぼに苗が植えられた様子をよく見るように話す。	・田植えが終了後は一緒に植えられた苗の様子を見る。	
・田んぼに小さな生き物がいるので観察するようにする。	・今後も一緒に交流しながら、稲の成長を楽しみに待つように確認し合う。	・

考　察

幼稚園　５年生がもち米の田植えを体験していたので、教師の声かけがほとんどなくても、幼児と一緒に田植えを進めることができた。自分たちができないことを行動で見せてくれた５年生に対して「すごい、板から落ちないで植えてるなどと憧れの気持ちを声に出す幼児も見られた。また、幼児の中には田んぼにいる小さな生き物に興味がある子が見られた。１回目の交流活動であったが、ペアになって活動できたことが安心につながり、優しく声かけをしてくれた５年生に親しみを持つことができた。

小学校　１回目の交流だったので、お互いに緊張していた様子だが、５年生が積極的に声かけをし、楽しく交流することができたようである。幼稚園児の手を取って教えることで、親近感もわいた。今後も楽しく交流を深めていきたい。

6月13日(水)「ホウネンエビをつかまえよう」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・約束をしていた「ホウネンエビ」を捕りに行く。 ・生き物が苦手な子もいるので興味のある子に声を掛ける。 ・幼児はエビと呼んでいるのでエビと言って活動する。 ・ミジンコも捕れると予想するので、エサとして捕ってくるようにする。 ・ホウネンエビをみんなで見合い観察する中で疑問点が生まれると予想する。 ・交流を持った5年生に聞こうという流れになると予想するので、幼児のつぶやきを聞き逃さないようにする。	・昨日の田植えの時に見つけた「ホウネンエビ」をアミを利用して捕まえる。 ・あらかじめ田んぼの土・水を入れた水槽に捕まえたホウネンエビやミジンコを入れる。 ・捕まえてきたホウネンエビをみんなで見合う。 ・エビに対する質問事項をまとめる。 ・質問をだれに質問しようか？を話し合う ・5年生の担任に質問事項を渡し相談する	

7月12日(木)「5年生が調べてくれたことを教えてくれる・小さい生き物を顕微鏡で見せてくれる」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・ ・小さい生き物が顕微鏡で見やすいように布を利用して採取するようにする。 ・質問した内容を幼児たちは、忘れていると思われるので、質問を言ってから調べた内容を発表するように5年生に話をした。 ・顕微鏡には、手を触れないようにする ・生き物よく見えるときに、　声を掛けたくさんの幼児が見られるように配慮する。	・11日（水）幼稚園担当の児童と話し合いをし、質問に答えた後に、顕微鏡で小さい生き物を見せてくれることになった。田んぼで幼稚園児が生き物を捕まえる事を話し合った。 ・12日（木）田んぼにいき小さい生き物を捕まえる。 ・理科室にて5年生が13項目の幼児たちからの質問について自分たちで調べた答えを教えてくれた ・解剖顕微鏡で、動物性プランクトン（ミジンコ）植物性プランクトン(イカダモ・ヤゴなどを見せてくれた。	・幼稚園児が分かりやすく、スムーズに観察ができるように事前準備をさせる。 ・安全に観察できるように園児に声をかける。

考　察

幼稚園　5年生が図鑑やインターネットを利用して、13項目の質問を真剣に調べて答えてくれたことが嬉しかった。調べてもわからなかったことは「わかりませんでした」とはっきり言ってくれたことに好感を持った。幼児たちは答えを聞きながら「ホウネンエビ」に再度、興味がわいていたように感じられた。解剖顕微鏡は、見たことがなかったので「見える。なんだこれ？変な形」などと言っている子の言葉に、興味津々の様子が見られた。

5年生は顕微鏡の準備・ステージに乗せてからピントあわせなどを意欲的に行い、幼児たちを手招きしながら説明してくれた。幼児たちは貴重な体験をすることができた。

小学校　5年生全員でかかわわることができなかったが、幼稚園児のことを考えて、準備に取り組み事ができた。また、進んで幼稚園児とかかわろうとする姿が多く見られた。

田植えをしよう

この線に合わせて
植えようね

じょうずにできたね

遠いところは私たちが植えるから　だいじょうぶだよ

真ん中は　ぼくにまかせて！

ホウネンエビをつかまえよう

なんだかうごいているよ
なんだろう？

ぼくは手でつかまえたよ
エビみたいなものだよ

ここにもいるよ
うごいてるよ

小さい生き物を顕微鏡でみよう

顕微鏡で見るように生
き物をつかまえよう

待っててね
今　見えるように
してあげるからね

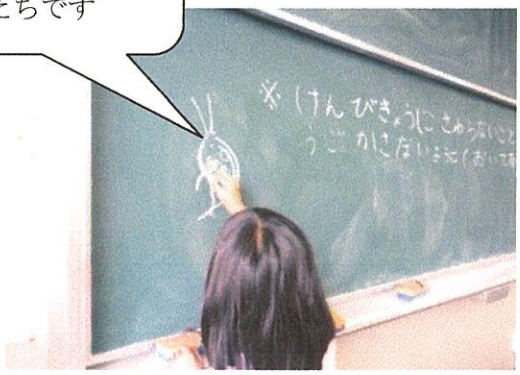
見えた見えた
なんだか動いている

早く見たいよ

まだ見ていない人は
ここにいるので見て下
さい

幼稚園の人からの質
問に答えます！
エビの名前は「ホウネ
ンエビ」と言って卵か
ら春先に産まれます

動いているのは「ミジ
ンコ」といいます
こんなかたちです



9月4日(火)「かかしを作ろう」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・夏休み中に鳥よけの網をかけたことに気付かせる。 ・幼児にはなぜ網を掛けたのかを考えるように話をする。 ・米を守るためにかかしを作ろうという意見が聞けたが、どのように作ったらよいのかイメージがつかめない様子なので絵本や図鑑でイメージがわかるように配慮した。 ・イメージに合う洋服や顔を作る材料を用意する。 ・かかしが倒れないように設置する。	・夏休み明けに稲の成長を見に田んぼへ行くと、黄金色の稲が成長していた。 ・夏休み中に教師が鳥よけの網を掛けたことに気付く。 ・網の目から実った稲がはみでていることに気付き「かかしを作ったらお米を食べられないかもしれないよ」と意見を言う ・絵本を見ながら洋服を着せる顔を作るという事が分かり制作を始めた。 ・３体のかかしを制作したので、田んぼに設置しに行く。	

9月１８日(火)「５年生と一緒に稲刈りをしよう」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・田植えを５年生と一緒に行ったことを思い出しながら稲刈りの方法を話しあう ・５年生担任にはあらかじめ一緒に稲刈をしてほしいことを話しておく。 ・４名の幼児と共に、５年生の教室へ行き稲刈りを一緒に行ってほしいことを話し交流時間を決める。 ・カマを使用するのは危険なのではさみを使用するようにする。たくさんの束を切ろうとすると危険なので少しづつの束を切るように配慮する。 ・５年生に稲刈りの方法を話して、幼児に危険がないように様子を見ながら稲刈りをするように話をする。	・稲刈りをすることを皆で相談していた時、「誰か稲刈りをお手伝いしてくれる人はいないかな？」と投げかけると「５年生ができるよ。５年生ならやってくれると思うよ」という事で５年生の教室へ幼児と一緒にお願いに行く。 ・「５年生のお兄さんお姉さん一緒に稲刈りをして下さい。お願いします」と話すと「いいですよ。行きますよ」と快く返事をしてくれた。 ・給食後に幼稚園の田んぼの稲刈りを行う ・刈り取った稲は束ねて、日に当たらない場所に干す。	・幼稚園児が安全に取り組めるようにはさみの扱い方などを５年生に指示し、５年生が幼稚園児に教える。 ・稲を切るのは、力が必要なので幼稚園児ができないときは５年生がサポートするように声をかける。 ・稲を束ねる際に、幼稚園児が困らないように誘導するよう、５年生に指示をする

考　察

幼稚園　夏休み明けに田んぼを見に行ったとき幼児は、稲の成長に驚いていた。教師が掛けた網の目から穂が出ていたことから、かかし作りに発展し幼児が試行錯誤しながら、年長児が力を合わせてかかし作りをすることができた。共通の明確な目的に向って協力する頼もしい姿を見ることができた。

稲刈りでは、田植えで協力してくれた５年生を頼りにし、幼児が教室までお願いに行き交流活動を進めることができた。５年生の稲刈りの体験より先に実施することになったが、幼児に寄り添い丁寧に交流してくれていた。５年生を信頼し頼りにする幼児の姿を交流活動中たくさんみることができた。

小学校　田んぼの規模を考えると５年生全員が参加することはできなかった。しかし、何度もかかわる幼児たちに積極的に声をかける姿が多く見られた。また、何度か交流しているため、顔見知りの幼児も増えてきたように思う。今回の交流により、自分たちの総合学習に生かそうとする意欲が感じられた。

１０月３日(水)「もみとりをしよう」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・乾燥しておいた稲の様子をよく見たり、稲の束を持たせてみる。 ・指を滑らせての作業なので指が痛くならないように気を付ける。 ・みんなで力を合わせてもみとり作業を行うように励ます。 ・収穫できたもみの様子をよく見させる。 ・収穫したもみが、どのように白米になり食べることができるかを考えさせる。 ・収穫量の測量に期待を持たせる。 ・幼児のみの作業ではもみとりが終わらなかったので、職員作業ですべて収穫する ・わら束を利用しての活動が予想されるので幼児の手の届くところに置くようにする。	・稲刈りから約２週間が過ぎはぜがけをしておいた稲が乾燥したので、もみとりをする。 ・束ねた稲をとり、指を滑らせもみをとる ・収穫したもみがらをむいて中から、玄米が出てくることを話し合う。 ・収穫量に興味を持った幼児の発言から明日、収穫量を測ってみることにした。 ・収穫したわら束を見て「ほうきみたい」「ねじねじして、お花つけてみたい」などの会話が聞けた。	

１０月４日（木）「収穫したもみがらを測ってみよう」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・収穫量の測量では、当然、容器（ザル）の重さを引かなくては、正確な重さを測量することはできないのだが、幼児の気付きを待つことにした。 ・容器入れての収穫が６．５kgに満足した様子であり、容器・もみがらの重さも測量していることは、誰も気づかなかった ・収穫した米が見て、昨年も実施した「おにぎりパーティー」に対する期待が大きく膨らんだように思われる。	・どのようにして収穫量を測るかを話し合い、身体測定で使用している体重計での測量を行うことにした。 ・自分の体重を測定したのち、収穫量と比較する姿が見られた。 ・幼稚園のみんなと、５年生と一緒に「これだけあればおにぎりパーティーができるね」と５年生との交流をのぞむ発言が聞かれた。	

考　察

幼稚園　はぜがけした様子を見て「どうして干すの？」「パサパサしたね」「これがお米なの？」「いつ食べられるの？」などど白米との違いを実感できたように感じられる。図鑑で調べたり教師に質問したり米の一粒一粒の大切さなどを話し合うことができた。今までお弁当をこぼしていた子もなるべくこぼさずに食べたり、食べ残さないようにという食育について指導するチャンスともなった。また、収穫したもみがらの収穫量に関心を持った幼児の言葉から、重さ・もみがの数に興味がむき幼児の気付きを育ちとして捉えることができた。

また、本来処分してしまうわら束を見て「ほうきみたい」「ねじねじして、お花をつけてみたい」という幼児の発見からワクワクするような次の活動に発展する予感が感じられた。

はぜかけを体験したことにより近隣の田んぼでもこの時期同じような仕事をしている農家の様子を観察し、「お米を干していたのを見たよ」「お米はネットをかぶせて、すずめに食べられないようにしてたよ」など身近な地域の様子と、自分たちが体験したことを重ねあわせることができた幼児も見られた。

かかしをつくろう

一緒に稲刈をしよう

もみとりをしよう

収獲したもみがらを測ってみよう

収獲したもみがらのもみをすろう

１０月１８日（木）「もみがらとりをしよう」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・少量のもみを入れて、野球ボールですってももみがこぼれないようにする ・すり鉢が動くと危険なので、押さえることを教える。 ・こぼれた米の一粒も残さないように声をかけて一粒の米の大切さに気付かせる。 ・もみがらとりをする苦労を体験することにより、米が食べられるようになるためには、時間と労力が必要であることを実感させる。	・すり鉢の中にもみを入れて、野球ボールを使用してもみがらとりをする。 ・みんなで交代して、する鉢を押さえたりもみとりをする体験を行う。	

１０月２２日（月）「海水から塩を作ろう」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・昨年度、海水から塩を作った経験が印象に残っていた子からの意見で、今年度も海水から塩を作る計画をした。 ・なべに海水を入れ、水分が蒸発するまで煮出す。その間は、危険なので教師が火のそばから離れないようにする。 ・出来上がった塩の味見では、出来上がった塩の分量や色に関心を持つ子が多かった。 ・海水から塩ができるという今まで見たとこのない体験の不思議さに気付くいように言葉を投げかける。 ・出来上がった塩を使って「おにぎりパーティ＆芋煮会」を５年生と行うことを告げ、期待を持たせる。	・登園後、徒歩で１５分ほどの乗り越し海岸へ行き４リットルの海水をとる。 ・保育室にて、カスコンロで海水を煮る。 ・２時間後に出来上がった塩を試食する。	

１０月２５日（木）「５年生と一緒におにぎりパーティー＆芋煮会」

幼稚園教師のかかわり・留意点	活動の流れ・内容	小学校教師のかかわり・留意点
・５年生が役割分担して作業が進むように調理器具を用意しておく。 ・５年生が包丁でジャガイモの皮をむく様子を座って見させる。 ・包丁を使っているので、まわりに近づかないないようにする。 ・米をといでいる様子を見せて、米がきれいになっていくことを話す。	・希望した５年生が幼稚園で野菜を刻む作業を行う。 ・５年生は手を洗い身支度を整えてから作業を開始する。 ・５年生が行い作業を幼児は、見ている。ジャガイモ・人参は、包丁で皮をむいてから食べやすい大きさに刻む。 ピーラーでさつまいもの皮をむき、食べやすい大きさに刻む。 米をとぐ。	・日常生活や、家庭科の学習を生かして安全に作業ができるよう声をする。 ・作業が慣れていない子には、教師が手本を見せる

ないないようにする。 ・米をといでいる様子を見せて、米がきれいになっていくことを話す。 ・５年生と幼児が一緒のテーブルに付けるように前もって幼児を座らせておく。 ・米入りのラップも芋煮の器も熱いので落ち着いて配膳ができるように配慮する ・米作りの思い出や苦労したことを思い出し、米は大切に頂くという事を話す。 ・芋煮にはたくさんの野菜が入っているので、好き嫌いせず食べやすく刻まれた野菜の種類を考えながらおいしく頂けるように話をする。 ・５年生は給食があるので、お代わりはせづ片付ける。 ・幼児は、お弁当を持って来ていないのでお代わりをしたい子はお代わりをする。 ・机で一緒に食べている様子を見て周り感想を聞き逃さないように配慮する。	ジャガイモ・人参は、包丁で皮をむいてから食べやすい大きさに刻む。 ピーラーでさつまいもの皮をむき、食べやすい大きさに刻む。 米をとぐ。 ・12時に園庭に５年生が来るので、ビニールシートを敷き、机を用意して配膳の用意をしておく。 ・園児・５年生が配膳をする。 ・ラップに海水から作った塩一つまみとり炊きたての新米をのせ、おにぎりを握る ・幼稚園で収穫したさつまいも入りの芋煮の器を配膳する。 ・終了が近づいたころに、お互いにお礼の挨拶を行う。 ・５年生は給食時間があるので、食べ終わった児童からかたづけて、小学校に戻る。	・作業が慣れていない子には、教師が手本を見せる ・できるだけ園児と同じ席になるように座らせる。 ・園児が育てた食物であることを意識してたべるよう指導する。

考　察

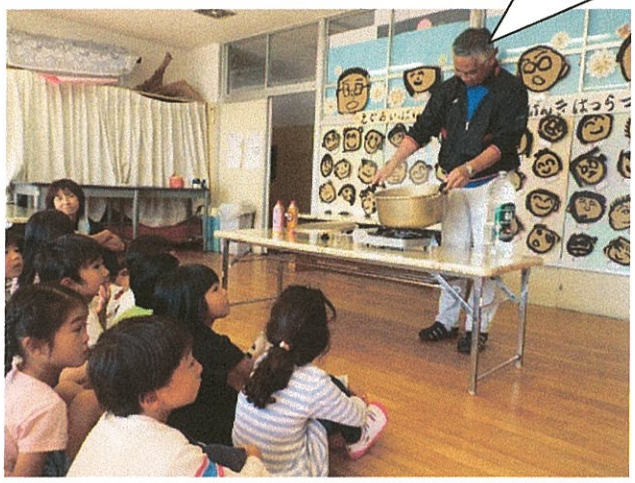
幼稚園　５月の田植えから稲刈り、脱穀、もみすりと６か月の米作りの活動のまとめとして「おにぎりパーティー＆芋煮会」を計画した。みんなで苦労して作った新米。海水から塩を作ってその塩を使っておにぎりを作ったこと、畑で育てたさつまいもが芋煮の中に入っていたことなど幼児の体験が形になって目の前に現れたので、本日の会は食育の面から大きな意義を持っているように思われる。また、５年生との交流では、包丁を使って食べやすい大きさに刻む作業を真剣な様子で見て「すごい」「ママと同じだ」と５年生に憧れを持つ言葉も聞くことができきた。

一緒のテーブルでおにぎりを握っている様子は、本当にうれしそうであった。丸・俵・三角それぞれのおにぎりをほおばる微笑ましい姿を見ることができた。おにぎりをお代わりする時も、こぼさないようにしたり、芋煮も残さずに食べきろうとする姿も見られた。

小学校　これまでは「幼稚園児からのお願い」という形での関わりでしたが、今回は「幼稚園児がわのお招き」という形で関わった。今後、５年生は、総合的な学習で和菓子作りにチャレンジするが、その活動の流れで「幼稚園児を招いて和菓子を一緒に味わう」と進む予定である。そのきっかけ作りにもなる大変有意義な交流となった。

海水から塩を作ろう

今　乗り越し海岸から
くんできた海の水です
このなべで煮ますよ
どうなるでしょうか？



本当に塩って海の水から
作られているんだね

海の水はどこへ
いったのかな？

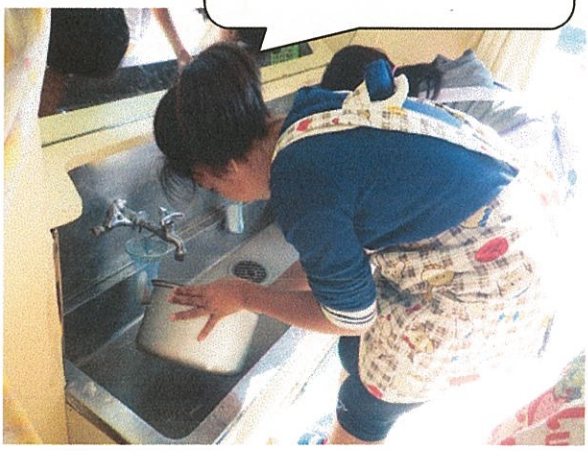
おいししょっぱい！
しよっぱ～い！

おにぎりパーティー＆芋煮会

人参とジャガイモのかわ
は　包丁でむきます

ぼくは　さつまいもを
ピーラーでむいてるよ
ジャンケンでかったか
ら幼稚園に来たんだよ

新しいお米はさらさらし
ていますよ



ラップに塩とご飯を入れて　私は
三角おにぎりを握ります　あちち

おにいさんのおにぎりは三角で上
手だね　ぼくは残さずに食べるよ

みんなでたべるとおいしい
ね！ご飯　おいしいよ！！

５年生との米作りの交流で育った姿

	育ってほしい姿	活動内容	幼児のつぶやき・姿	身に付いた内容
健康	健康な心と体	稲刈りをした時	「たくさん束ねてもらったよ。たくさんだから、ぼくがもってあげるよ」	(4)様々な活動に親しみ喜んで取り組む。
			「幼稚園まで稲を運ぶの重たいよ。でも、頑張るよ」	(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
			「おいしいお米ができたら、みんなでおにぎりパーティーしよう楽しみだね」	(5)先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への関心をもつ。
人間関係	自立心	稲刈り後、自分で稲を束ねようとした時	「私、そういうのできるから、ひもちょうだいやってみる」	(3)自分でできることは自分でする。
			「まだまだ、稲がたくさんあるからもっととらなきゃだめだよ。残ってるよもったいない」	(4)いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
	協同性	みんなでもみがらを育苗箱に植えた時	「綿の上に一つまみづついれようね」 「全部植え終わるまでがんばろう」	(1)先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
		田植えをした時	「５年生と一緒に田植えをしようね」 「真ん中は、５年生が植えてくれる」 「ここをくぎでうったほうがいいよ。おさえてるね。今度は交代しようね」	(4)いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
		かかしを作った時	[お米を守るためにみんなでかかしを作ったらどうかな」	(8)友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりする。
			「女の子のかかしだからかわいい顔にしようね。スカートをはかせてあげたらどうかな」	（６）自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
	道徳性・規範意識の芽生え	もみすりをした時	「ぼくが、先にボールでクルクルするね順番にしよう」 「じゃぁ。ぼくは、こぼれたお米を拾うかかりになるね」	（７）友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
		おにぎりパーティ＆芋煮会をした時	「１列に並んで、ラップ・塩・ご飯の順番にもらう。そして三角おにぎりにしよう」 「おにぎりの後は、芋煮をもらうんだよね」	（１１）友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。
	社会生活との関わり	塩作りをした時	「本当に塩って海の水から作れるんだね。みんなでもっと作ろうよ」	（７）友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
環境	思考力の芽生え	稲刈りをした時	「スズメも生きていくためには、お米を食べなきゃ死んじゃうよね」 「でもね、幼稚園のお米は食べちゃダメなんだよなんか食べればばいいよね」	(5)身近な動植物に親しみを持って接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。
		塩作りをした時	「塩がでたけど、海の水はどこへいったのかな？」	(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
	自然との関わり・生命尊重	ホウネンエビ採りをした時	「エビみたいなものが動いているよ」 「手で採れたよ。これなんだろう？」 「何をたべるんだろう？」 「オスとメスはどこが違うのかな？」	(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。

		顕微鏡で小さい生き物を見せてもらった時	「見えたよ。動いているよ」 「これがミジンコだってよ」	(5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。
		２度目にホウネンエビ採りをしようとしたがいなくなっていた時	「なんでホウネンエビはいなくなったんだろう」	(2)生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ
		５年生に小さい生き物（ホウネンエビ）についての質問事項を書いた時	「オス・メスの違いはなんですか？」 「どのくらいいきていますか？」 「何からうまれたのですか？」	(5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
		はぜがけをした時	「どうして？ほすの？」」 「お米は干すとおいしくなるの？」	(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 (3)季節により自然や人間の生活に変化があることに気付く。
	数量・図形、文字等への関心・感覚	５年生に小さい生き物（ホウネンエビ）についての質問事項を書いた時	「オス・メスの違いはなんですか？」 「どのくらいいきていますか？」 「何からうまれたのですか？」	（１０）日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
		脱穀をした時	「このお米、１万個あるんじゃない」 「たくさんあるからはかったらいいよ」 「身体測定の時の体重計ではかってみようよ」 「僕は16キログラムで、お米は6.5キログラムだったよ」	（９）日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
言葉	言葉による伝え合い	かかしを作って話しかけた時	「よろしくね。かかしさん。みんなのお米を守ってね」	（８）いろいろな体験を通してイメージや言葉を豊かにする。
		５年生に稲刈りのお手伝いをお願いに行った時	「５年生のおにいさん・おねえさん一緒に稲刈りをして下さい。お願いします」	（３）したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
表現	豊かな感性と表現	かかしを作って話しかけた時	「よろしくね。かかしさん。みんなのお米を守ってね」	（３）様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
		塩を味見した時	「わぁー、おいししょっぱい」	（２）したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
		５年生が野菜を刻んでいるのを見ている時	「野菜のかわをむく」 「食べやすい大きさにきざむ」 「お米をとぐ」	（５）生活の中で必要な言葉が分かり使う。

大楠幼稚園の考える今後の交流活動の進め方

幼　稚　園		小　学　校
指導計画のねらいを考える。	年間の交流を話しあう ★時期は？ ★内容は？ ★時間は？	何の授業でどの単元かを考える
小学生と何をして遊びたいか その活動をする中で自分たちに何ができるか	内容を幼児・児童がそれぞれ考え話しあう	幼稚園児にどんなことをしてあげようか 喜ぶ活動は何かな 学びの必然性 その活動をする中で自分たちができることは何かな
幼児のねがいで交流活動が進む 幼児の願いを小学校へ発信する	交流活動	児童の考えで交流活動が進む ねらいを明確化し児童の考えをまとめる
交流活動はどうだったかな どんなことが楽しかったかな 満足感・自己肯定感・達成感	幼児・児童のふりかえり	幼児の様子はどうだった 自分たちの言葉かけや動きは適切だったかな
幼児の成長に会った交流活動ができたかを考える ねらいと実践のギャップはなかったかを考える 来年度の交流活動を模索する	教師同士の話しあい	今年度の交流活動が児童にとってどのような成長が見られたかを考える 来年度の交流活動に何をつなげるかを模索する 単元のねらいを達成できたかどうかを考える

＊幼児自身がやりたいと思ったことが実現したという経験が自信となり、友だちを受け入れ関わることができる。そこで、発達に応じた興味関心を育むような環境構成を行うことが大切である。

各教師の配慮点

＊学びの必然性を考慮して活動の広がりができるような余裕を持った、環境構成を行うことが大切である。

連携の成果

（1） 子ども同士の交流活動により育った姿

【幼児】

・幼児が小学校生活に親しみ期待を寄せたり、自分の近い未来を見通すことができるようになった。

・交流活動で園児が新たな体験をすることで、活動の刺激になった。

【児童】

・児童が幼児に伝わるような言葉使いやかかわりを工夫したり、思いやりの心を育んだり、自分の成長に気付いたりできた。

・交流活動において幼児に喜ばれたり頼りにされることにより、児童は達成感を感じると共に、自信を持つことができた。

・交流活動において準備や説明を行うことで、主体性が見られたり積極的に活動する姿も見られた。

（2） 教師の交流

・幼児・児童の実態。教育内容や指導方法について相互理解を深めることにより、円滑な接続に向けた指導方法等の改善ができる。

・発達段階に応じてそれぞれの教師の果たすべき役割について再確認できた。

【幼稚園教師】

・小学校入学後の子供の成長を見て、幼児教育の重要性を再確認した。

【小学校教師】

・幼児の生活の様子を見ることで、実態がわかりスタートカリキュラムの役に立った。

今後の課題

（1） 幼小の連携は以前から必要とされてきているが、今また、新しく必須の課題となっている。それゆえ、まず大前提として、両者間での連携の教育的意義を確認し合いこれまで以上に密にして、幼児一人一人の園生活を充実すると共に、連続的な学びや育ちが小学校生活へ円滑に継がれていくことが大切である。

（2） 幼稚園から小学校への接続期に円滑な移行を図るために、「生活・遊びによる幼児教育」そして「各教科の目標や内容の系統性を大切にする小学校教育」等について日ごろから幼・小の教師が一緒に学び合うと共に、それぞれにいかせることはとり入れ合い、互いの教育力を向上し合う機会を設けることが必要である。

（3） 幼児だけでなく保護者も安心して小学校入学を迎えられることができるよう、小学校における学習や生活について情報提供するなど、保護者に対しての支援も大切である。また、発達障害のある幼児に対する義務教育段階への円滑な接続にあたっては、家庭や医療・福祉等の関連機関と連携することも大切である。

（4） 幼児の発達を把握し、見通しを持った指導が大切である。そのためには育てたい幼児の姿や能力などを互いに話し合うことが大切である。幼時期の「遊び」を充実させ、児童期の「学習」に生かしていくためのカリキュラムを位置づける必要がある。